

新宮山彦ぐるーぷ第2172回

行仙宿↓東屋岳間の奥駆道巡視・整備

◇実施日 4月10日(日)

晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、湯川一郎、内野井慎搾、

ブランドン・リムステッド、西克、乾克己、梶野照雄、

志岐敬

10名

春季の巡視も今回で5回目となる。今回、高階(美)、大江(加)のお二人が怪我で、生熊(千)さんは地域行事への参加があつて女性陣の参加は無し。

当日朝7時半過ぎ、新宮組4名、熊野の西さんと下葛川のブランドン君の6名が21世紀の森入り口に集まる。車4台でR425の東屋岳登山口に向かう。今回は行仙宿からの一方通行なので、車3台を国道わきにデポし、沖崎車に6人が乗り込み行仙宿登山口に向かう。白谷トンネルの手前に通行規制の看板があつて、6月末までトンネルの補修工事が行われ時間制限の通行止めになるようだ。

池郷林道や釈迦ヶ岳の太尾登山口に向かう林道は通行できるよになつたが、国道309号が崩土通行止め、前鬼村道がトンネル補修工事で時間規制と、大峰山脈のアクセス道路は满身創痕の状態だ。

行仙宿登山口では児嶋、乾のお二人が早くもモノレール収納庫をどう作るかと検討中だった。集合時刻の8時30分を過ぎても梶野

車がやってこない。吉野山の桜見物客で渋滞しているのだろう、との声で皆さんに先行していただき、沖崎が一人で待機する。

昨日、今日と25℃を越える気温で、湯川、ブランドンの二人はTシャツ一枚で登って行った。しばらくして梶野、志岐の二人が到着。モノレールに乗車して終点に着いた。ほぼ同時に歩き組も到着し、大きな遅れは無かつた。



“杭まる”を運ぶ

行仙宿を出発

捲き道分岐

第2ベンチにデポされている電源開発から寄贈していただいた“杭まる”20本を分担して上の伐採地まで運ぶ。各々2本ほどだが、内野井君は一束10本をそのまま担ぎ上げた。20kgはあつただろう。

【笠捨山・地藏岳捲き道班】

行仙宿小屋に着いたが、予定時刻を少しオーバーしている。

小屋内外を見回り、午前9時45分に出発する。笠捨山捲き道分岐

で捲き道班の梶野、志岐、湯川の3人と別れ、7人で笠捨山を目指す。分岐からの急登もなんとかクリアする。ここも倒木は無し、道荒れも見当たらない。この先も異常はなさそうだ。

小屋から30分少々の所で、東側の崖に転落防止用のロープを設置しているが、ここでロープを補修した以外、これと言った作業は無かった。児嶋さん一人だけがテープのマーキングに忙しい。



捲き道分岐からの急登

ロープを補修

山頂まで後5分と言うところで「葛川辻に着いた」と梶野君から電話が入る。約2時間を要して笠捨山山頂に到着。昨年は1時間50分、一昨年までは1時間40分。やれやれ段々と笠捨が遠くなってきた。腹は減るし飯は食いたいが、昼食を予定している合流地点の26番鉄塔へ急いで下る。12時40分、ようやく26番鉄塔に着き昼食にあり付けた。食後は今日も児嶋さんのコーヒを頂く。いつもありがとうございます。

地藏岳も山頂と捲き道の2班に分かれて行動する。

沖崎、濱野、乾、湯川の4名が捲き道を、他の6名が山頂経由で東屋岳に向かう。



26番鉄塔に着く

本日の参加者

東屋岳に登る

地藏岳の捲き道は昨年通った時よりも状態は良くなっていた。電源開発が工事のために整備したのだろうと思うが、踏み跡もすっかりして、目印のテープも増えている。道迷いの不安は無く順調に石碑の所まで来た。右手の水場に水は全く無し。水場としての役目は今後も期待できない。

奥駈道に登り返す杉松の木々の間に道らしい道は無く、踏み跡らしきものが複数見られる。登りながらスプレー缶で丸印を付けて誘導を明確にした。30分ほどで奥駈道に合流、7〜8分後に山頂班も到着して全員が揃い目の前の東屋岳に向かった。

四阿宿に到着、児嶋さんは東屋岳からR425へ向かう道にロープを張り、梶野君はR425と奥駈道の標識2枚を設置した。

55分でR425に下山、今日の行程でも大きな異常は見当たらず。

ず、これで行仙宿以南の奥駈道巡視は完了した。
皆さんご苦勞様でした。たくさんミカンを頂き、西さんありがとうございます。
ございました。
(記：沖崎)

行動タイム

行仙宿 09：45↓09：56 捲き道分岐→10：25 ロープ補修箇所→11：
55 笠捨山→12：40 26番鉄塔 13：16→14：15 奥駈道石柱→14：34
四阿宿 14：45→15：40 R425

【笠捨山捲き道・地蔵岳班】



要補修箇所

24番鉄塔で工事中

倒木の切除

捲き道分岐で笠捨山班と別れ梶野、志岐、湯川の3人で捲き道を
進む。杭が緩んで椀木が外れている箇所が4〜5ヶ所確認できる。
土が柔らかいので谷側の杭はすぐに緩んでしまう。以前生熊さんが

補給路で施工したように、山側に杭を打ちワイヤーで谷側の杭を支
える方法を試してみるのもよいかと思う。
24番鉄塔のベンチで休憩する。鉄塔の上の方から声が聞こえてき
た。送電線の工事はこの鉄塔で行われていた。



太くて切れなかった

26番鉄塔に到着

第17摩槍ヶ岳

小屋から約一時間、枯れた杉が倒れて道を塞いでいる。直径は20
cm程度なので2ヶ所を切って通行を確保する。10数分歩くと再び
道を塞ぐ倒木があった。枯れたヒメシヤラで直径が30cm程あり、
バッテリーチェーンでは切断できず、先端を切るだけにとどめた。
その後は倒木や道の異常は無く、2時間かからずに葛川辻に着いた。
沖崎さんに連絡しようと無線機のマイクを握ったが、充電不足で送
信できず、携帯電話が通話可能だったので電話で葛川辻到着を連絡
する。26番鉄塔まで進んで笠捨山班を待たずに昼食を摂る。
素晴らしい快晴で釈迦ヶ岳や八人山もよく見えている。行仙岳の中
継所跡建物もはっきり見える。12時40分笠捨山班が到着し、食

後は地蔵岳の捲き道と山頂に分かれて出発する。山頂班は梶野、志岐、内野井、ブランドン、西、児嶋の6名で、ブランドン、西の2名が初めてここを通過する。



クサリの取り付け部

地蔵岳西のクサリ場

四阿宿

昨年児嶋さんがチェーンの取り付けを点検してくださったので、今回は取り付け部を立木から岩に変更できるかを調査した。丈夫な岩があり取り付けを変更できる個所もあるが、数カ所は取り付け部に岩が無く、現状を維持しなくてはならない。設置されているクサリに異常は無かった。

地蔵岳参道の石柱に着いて捲き道班と合流、東屋岳に向かった。

四阿宿で標識2本を設置し、R425へ降りた。

ブランドンとはここでお別れ、残りの9名が西、湯川車に分乗して行仙宿登山口に向かった。途中の行仙岳登山口に設置された池郷林道通行止めの看板を取り外した。

(記：梶野)



標識設置



通行止め看板を取り外す

行動タイム

09:45 捲き道分岐↓10:22 24番鉄塔↓11:40 葛川辻↓12:00 26番鉄塔 13:16↓13:37 槍ヶ岳↓13:53 地蔵岳↓14:34 四阿宿 14:45↓15:40 R425 15:56↓16:07 行仙宿登山口